

平成 22 年度 事故防止委員会活動報告

主任生活相談員 佐藤芳伸

委員会は 21 年度とほぼ同様の体制でヒヤリハットレポートと事故報告書を分析検討し、毎月委員会を行いました。平成 22 年度の集計は下記の通りです。

ヒヤリ・ハットレポート

項目 年	転倒転落	あざ打撲	剥離	他の傷	誤嚥	異食	薬	外出	その他	計
21 年度	289	155	70	42	11	13	77	6	154	817
22 年度	237	145	56	30	18	15	88	16	190	795

事故報告書

項目 年	転倒転落	あざ打撲 剥離 他の傷	誤嚥	薬	チューブ フォーレ	外出	骨折	その他 不明	計
21 年度	3	5	1	0	1	0	9	2	21
22 年度	2	5	0	0	0	0	5	3	15

平成 22 年度のヒヤリハット総数は 795 件。前年度と比べるとマイナス 22 件で、大きな変化ではないと思われませんが、一昨年度から前年度でマイナス 36 件だったため、2 年で 58 件のマイナスとなります。特養では新入居があると、1～2 ヶ月間はその方のレポートが数枚提出される傾向があります。おそらく双方が慣れない事で発生に繋がり、時間が経過する中で、その方の特徴がつかめたり対応策が見えてくるため、再発防止が出来てきていると思われま

す。項目別件数は、例年通りの傾向である。「転倒・転落」が最も多く、次に「皮下出血」、「薬」と続いています。

ヒヤリの数に占める骨折発生の割合をみると、今年度はかなり減少しました。これは一昨年から取り組んでいる骨折予防用具の推進と環境の整備、その人の生活リズムを把握した先取りケアにより、転倒しても骨折に至らない対応が出来て来ている現れと評価しています。

今年度の取り組みとして、「薬」の減少と「爪切りヒヤリ」の撲滅を目標としてきました。残念ながら「薬」は増加でした。「爪切り」は「その他の傷」に含まれているが、激減しました。職員の意識と技術の向上が結果として現れたと思います。

ヒヤリハットの目的として、事故防止とケアの向上があります。事故発生は年々減少傾向であり、昨年 21 件、今年が 15 件でした。今後もヒヤリハットを丁寧に拾い、検証して再発防止策を実践する事が重要であると考えます。ヒヤリハットの数からみて、重大事故や事故件数の割合が少ない事は、ヒヤリハットの効果と思われま